

1 単元名 徹底検証！鎌倉幕府 ～中世の日本～（8／8）

2 単元目標

- ・鎌倉幕府の成立や展開、滅亡について関心をもって調べたり、グループや学級での話し合いに意欲的に参加したりすることができる。（社会的事象への関心・意欲・態度）
- ・鎌倉幕府の成立や展開、滅亡について、朝廷との関係や幕府の政策、元寇などから多面的・多角的に捉え、自分の言葉で表現することができる。（社会的な思考・判断・表現）
- ・鎌倉幕府と朝廷との関係、幕府の政策、元寇に関する史料や年表などの資料を収集し、鎌倉幕府滅亡の理由を考えるための根拠として活用することができる。（資料活用の技能）
- ・鎌倉幕府滅亡の理由を考える学習を通して、武家政権の成立や支配の広がり、元寇がユーラシア大陸の変化の中で起こったことを理解することができる。（社会的事象についての知識・理解）

3 指導観

(1) 生徒観

これまで生徒は古代史の学習に取り組んできた。小学校で学んだ知識を生かして生き生きと発言したり、新しい知識に出合ったときに目を輝かせたりするなど、楽しそうに歴史を学ぶ様子が見られた。資料から読み取った事実を関連付けて考察する活動にも意欲的に取り組んだ。例えば、古代文明の学習では、四つの文明に関する資料から共通点を見つけることで、古代文明が発達する条件を考えることができた。日本の古代史では、前方後円墳の分布の様子を資料から読み取り、大和政権の支配勢力の広がりを考えることができた。

しかし、これらは教師から提示した資料を読み取り、そこから得られた知識を用いて考察するという活動である。資料の数も限られたものであり、学習課題も教師が提示したものであった。そこで、社会的事象から学習課題を自ら設定し、資料を取捨選択する力、また、それらの資料から読み取ったことを根拠に話し合う活動を通して、協働的に課題解決する力を伸ばしたいと考えた。

社会では、他者と話し合い、協力することで、最も適切な解決策を導く力が必要となる。そこで、自分たちで課題を設定し、仲間と話し合っ解決することを社会参画と捉え、本単元を設定する。

(2) 単元観

本単元は、平成29年告示中学校学習指導要領解説「社会編」の「B 近世までの日本とアジア」の中での「(2) 中世の日本」の内容である。鎌倉幕府は、日本最初の武家政権として誕生した。しかし、230年以上続いた室町幕府や260年以上続いた江戸幕府と比較すると、鎌倉幕府が政権を担った期間は約150年間と、他の武家政権より格段に短い。これは、直前まで政権を担当していた朝廷の力を抑え込めなかったこと、土地支配や相続の問題、そして、元寇など、様々な原因が絡み合ったためと考えられる。つまり、滅亡した理由を考えることで、鎌倉幕府の支配体制などのこの時代の特徴をつかむことができ、さらに、多面性をもつ滅亡理由を、多角的に捉えることができると考えられる。

まず課題設定を行うために、年表を用いる。鎌倉幕府、室町幕府、江戸幕府が政権を担っていた時代を色分けすることで、他の武家政権に比べ鎌倉幕府が短命であったことを実感させる。そこで、他の武家政権と比べ、短いのはなぜかと問いかけることで、「鎌倉幕府はなぜ滅亡したのか」という課題を設定できるようにする。

鎌倉幕府が滅亡した理由として生徒が挙げられるのは、①朝廷との関係、②鎌倉幕府の政策、

③元寇の三つが考えられる。この三つの視点についてそれぞれ学習することで、鎌倉幕府の特徴をつかませる。また、鎌倉幕府を支えたのも御家人であり、滅亡させたのも御家人であるため、將軍と「御恩と奉公」の関係で結ばれた御家人の立場から意見を考えることで、鎌倉時代の特徴をつかめるようにする。

①朝廷との関係についての学習では、平氏を倒し、初の武家政権として幕府が誕生したとき、承久の乱のとき、頼朝の直系である実朝が亡くなったときの三つを取り上げ、幕府と朝廷との関係を学習できるようにする。

②鎌倉幕府の政策の学習では、守護と地頭による支配体制、実朝が亡くなった後、北条氏が政権を握ったこと、御成敗式目の制定などを取り上げ、当時の武士にとっての土地の重要性、北条氏の支配が強まる中での御家人の思いを捉えることができるようにする。

③元寇の学習では、元寇に至るまでの過程をおさえた上で、元寇後の武士の思いを竹崎季長の蒙古襲来絵巻や永仁の徳政令の読み取りから考えるようにする。

これらの、①から③を学んだ上で、「鎌倉幕府が滅亡した理由」を再度考えるようにする。その際に、「滅亡した一番の理由は何か」と問い、自分がこれだと思った理由について調べ学習を行い、学級全体での話し合い活動を行う。初めは、直前に学習した元寇を理由に挙げる生徒が多数いることが予想される。そこで、当時の土地支配の様子として、分割相続を取り上げ、元寇の前から御家人たちが困窮した様子を知らせることで、揺さぶりをかける。また、最後に御家人である足利尊氏らが後醍醐天皇に味方したことを取り上げることで、幕府から御家人たちの気持ちが離れていたことを抑える。こうすることで、自分の考えた「一番の理由」である元寇だけが理由で滅亡したのではなく、そこには多くの理由が絡んでいることに気づかせたい。

本単元を通して、自分の課題について資料を根拠に話し合う力、多面性のあるものを多角的に捉える力をつけ、友達と協働で学ぶことを楽しむ姿を期待する。

4 社会参画を目指すための手だて

(1) 奉公バロメーターの活用

本単元では、常に御家人の立場から鎌倉時代について考え、その特徴をつかんでいく。鎌倉幕府滅亡には御家人たちの不満の高まりが大きく関係している。そこで、生徒一人一人が奉公バロメーターを操作することで、鎌倉幕府に奉公する気持ちが高いか、低いかを表し、不満の高まりを捉えやすくする。バロメーターで表現できるのは三段階で、青は「幕府に奉公したい気持ちが強い」、黄は「幕府に奉公したい気持ちが揺れ動いている」、赤は「幕府に奉公したくない」とする。また、自分の立場を可視化することで、意見交流の一助とする。

(2) 図書館司書の活用

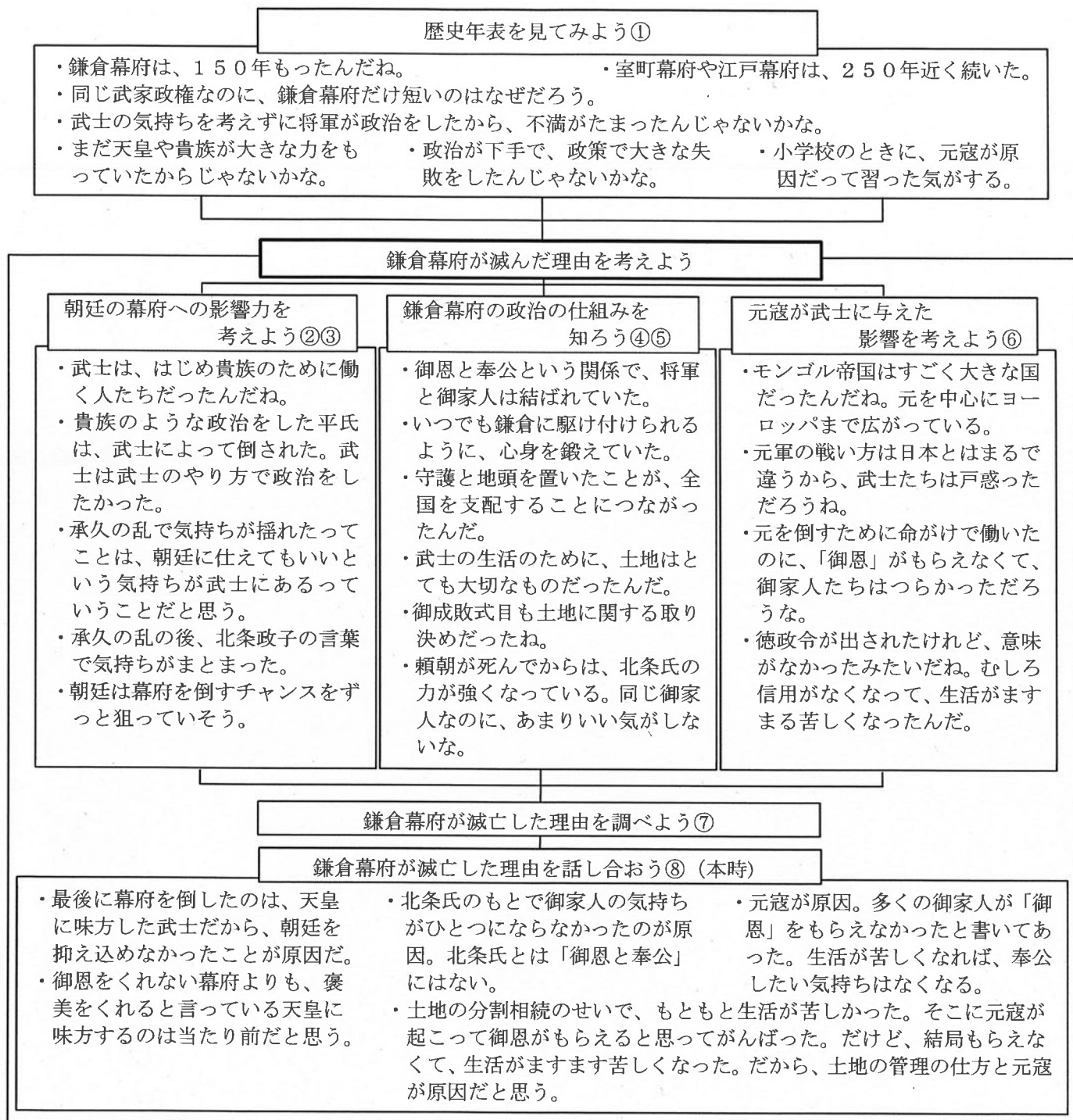
調べ学習を行う際には、図書館司書に選んでもらった図書を積極的に活用するようにする。インターネットを活用した調べ学習も考えられるが、出典の明確さ、情報の信憑性、情報量の多さから考えると、効率よく調べ学習を行うことは難しいと考えられる。そこで、図書館司書に依頼し、鎌倉時代に関する図書を選んでもらう。それを学級に設置することで、生徒がいつでも手に取ってそれらを調べられるようにする。これらの図書は、単元が始まる前から学級に設置するものとする。

(3) ふり返し貯金の活用

単元を通して、学習のふり返しを「ふり返し貯金」のカードに記録していく。これまでの学習の足跡が可視化できるようにする。さらに、次時の課題へとつながる意見を取り上げ、学習課題を設定できるようにする。生徒たちの疑問から学習課題を設定することで、主体的に学習に取り組むことができると考えられる。

また、付箋を毎時間3枚準備しておき、友達の活躍を認めるコメントを書き込めるようにしておく。コメントの書かれた付箋は、相手の「ふり返り貯金」のカードに貼付し、学び合いも可視化できるようにする。

5 単元構想（8時間完了）



6 本時の指導（8/8）

(1) 本時の目標

- ・鎌倉幕府が減った理由について、意欲的に話し合えることができる。

(社会的事象への関心・意欲・態度)

- ・鎌倉幕府が減った理由について、既習内容や調べ学習で分かったことを根拠に、自分の言葉で表現することができる。

(社会的な思考・判断・表現)

(2) 指導過程

学 習 活 動	教 師 の 支 援
1 学習課題を確認する。	
鎌倉幕府が滅亡した一番の理由は何だろう	
2 学級全体で話し合う。	
(1) 観点を絞って、意見を出し合う。	
<p>【元寇】</p> <ul style="list-style-type: none">・鎌倉時代は、証拠がないと御恩がもらえなかった。竹崎季長みたいに元寇での手柄を絵巻で訴えて御恩がもらえた人もいたけれど、ほとんどの人はもらえなかったということがこの資料からわかる。・元寇後の不満を和らげようと、徳政令を出したけれど、かえって武士への信用を失わせ、ますます生活が苦しくなった。だから、不満に思った御家人が倒したんだと思う。 <p>【朝廷との関係】</p> <ul style="list-style-type: none">・最後は結局、後醍醐天皇に味方した御家人が幕府を倒したから、朝廷を抑え込めなかったのが原因だと思う。 <p>【幕府の政策】</p> <ul style="list-style-type: none">・北条氏と「御恩と奉公」の関係で結ばれていたわけではないので、北条氏に不満のある御家人もいたと、この資料に書いてあった。・この資料から、分割相続で生活が苦しくなっていたということが分かる。元寇前から御家人たちはあまり裕福な暮らしをしていたわけではないので、そこにも不満があったのではないかと思う。	<ul style="list-style-type: none">・根拠を明確にして話ができるようにするために、どこの資料からそう考えたかななどを聞き返す。・意見交換が活発に行われない場合には、話し合いをしやすい雰囲気をつくるため、近い席の生徒と意見交換をする場面を設定する。 <ul style="list-style-type: none">・元寇前から、御家人の生活が苦しかったことに気づかせるために、分割相続について調べている生徒の意見を取り上げる。
(2) 元寇前から生活が苦しかったことという	
意見を聞き、さらに一度話し合う。	
<ul style="list-style-type: none">・北条氏が政治をしていたことも、不満の元だったと思う。將軍ではなく自分たちと同じ御家人なのに、偉い顔をしていて嫌だった。それが、元寇をきっかけに、もっと生活が苦しくなって不満が高まったんだ。・確かに元寇の前から、相続の問題によって生活が苦しくなっていた。だから、元寇で手柄をあげて御恩をもらおうとしていた。だから、元寇はきっかけではあったけれど、幕府の政策にもともと不満のあった御家人もいたんだと思う。	<ul style="list-style-type: none">・自分の意見を明確にするために、周りの席の生徒と話し合うよう促す。その際、机間支援を行い、誰がどんな意見をもっているか、座席表に控えておく。
3 ふり返りをする。	
<ul style="list-style-type: none">・一番の理由と言われると元寇だと思うけれど、その前からいろいろな御家人の不満の積み重ねがあって、鎌倉幕府は滅んでしまったのだということがわかった。・〇〇君の意見を聞いて、分割相続ということを知った。そこから、いろんな理由から元寇が滅亡したということに気づくことができた。	<ul style="list-style-type: none">・考えを再構築できた生徒を2名程度指名し、発表させる。

(3) 評価

- ・鎌倉幕府が滅亡した理由について、意欲的に話し合うことができたか、話し合いの様子やふり返りの記述から判断する。
- ・鎌倉幕府が滅亡した理由について、既習内容や調べ学習で分かったことを根拠に、自分の言葉で表現することができたか、話し合いの様子やふり返りの記述から判断する。